

【高校生部門】優良賞

「未来の君に伝える言葉」

群馬県立大間々高等学校 2年 中川 創

高校二年生の僕には今、大切な人がいる。その子は明るくておもしろくて、言うのは少し恥ずかしいけれど笑顔がとても可愛い。でも、一人で何でも抱え込んでしまったり、人前では泣かずよく一人で泣いてしまう頑張り屋さんの一面もある。僕はそんな彼女を隣で精一杯支えてあげたい、守ってあげたいと思うている。僕は彼女のことがとても大好きだ。

十年後の僕は今と変わらず彼女と一緒にいるのだろうか。もしいるのなら、僕はちゃんと彼女のことを守ってあげられているのだろうか。彼女にちゃんと自分の気持ちを隠さずに伝えているのだろうか。恥ずかしがらずに「愛してる」と言えているのだろうか。

僕は、十年後の僕に約束してほしいことがあってこの手紙を書いている。

一つ目は、これからも彼女のことを支えてあげてほしいということ。頑張り屋さんの彼女のことだから、また一人で何でも抱え込んで強がっているときがあるかもしれない。そのときは何も言わずに抱きしめてあげてほしい。したらきつと泣くだろう。僕もつられて泣いてしまうかもしれない。泣きながらお互いの顔を見て、何だか可笑しくなって吹き出すかもしれない。その時は思いっきり笑いあえるといいな。彼女の笑顔は大人になってもきつと可愛いと思う。そしてまた僕は彼女に惚れてしまうだろう。

二つ目は、何があったとしても彼女から離れないであげてほしい。幸せな日々を送っていてもいざれ喧嘩することがあると思う。彼女のことを嫌と思うときがくるかもしれない。そんなとき、冷静になって彼女と付き合った日のことを思い出してほしい。そしてもう一度よく考え直してほしい。彼女のどこを好きになったのか。なんで彼女とずっと一緒にいたいと思ったのか。答えは必ず自分の心の中にあるはずだから。

最後に、彼女に必ず伝えてほしい言葉がある。「君に愛を届けよう。」この言葉は僕の好きな曲にでてくる歌詞だ。これから先、色々な壁が立ちはだかかと思う。それを彼女と一緒に二人で乗り越えていってほしい。彼女が隣りにいてくれる喜び。充実した日々。支え。色々なこと全てに感謝を込めてこの言葉を伝えてほしい。この三つが僕から十年後の僕に約束してほしいことだ。

高校二年の僕も彼女の手をとり、一緒に歩んでいこう。そして十年後、必ず伝えよう。これから僕は君に「愛を届けよう。」と。